



都立南大沢学園通信

～情熱・誠実・実践～

東京都立南大沢学園
校長 井上 美保
令和6年6月1日発行
6月号

社会の中で、ともに働く

校長 井上 美保

廊下を歩いていると、生徒がよく話しかけてきます。

「食堂は社員食堂のようにチケット式が良いと思います。いろいろ選べる給食にしてください。」

「休み期間を多くしてください。」 「自動販売機の飲み物の種類を増やしてください。」

生徒たちは、自分達で、学校生活についていろいろ考えているのだなあとと思います。今年度から、生徒会役員生徒と「校長と語る会」を実施しようと思っています。固定概念にとらわれない、自由な発想が湧き上がればと思います。

さて、先日、『働く』ことについて、経営企画室で話をしていた時です。

室長からこんな話がありました。『自分自身がどんなに仕事を頑張っていると思っても、一緒に仕事をする周囲の人たちがそう思ってくれていなければ、仕事がうまくいっているとは言えない。』

『責任感とは、一人で仕事を抱え込むことではなく、間違いなく仕事を仕上げることができること。分かなければ人に聞いたり、助けを求めたりすることも大切で、それができることが責任感なのだ』と。

生徒にも同じことが言えます。

組織の中でともに働き、仕事をうまく進めていくためには、まずは自分のことをよく知ること。仕事をしていく上で必要とされるスキルのうち、何がどこまでできて、何がどうできないのか、自分をしっかり理解することが大切です。その上で、人の話をよく聞き、指示に従い正確に仕事を進めていくこと。自分勝手な思い込みや判断で動くのではなく、正しくやり遂げる実績を積み重ねることが大事なのだと思います。

本校では、職業に関する教科（コース）の授業の中で、就労するために必要な基礎的・基本的な力がどのくらい身についているのか、自己理解を促し、周囲にどう思われているのか、本人たちが理解できるよう指導を工夫しています。

南大沢学園には、将来の自立と社会参加に向け、学ぶ場所や学ぶ機会がたくさんあります。

学習活動だけでなく、多くの行事や部活動など、学年を超えて生徒が触れ合う機会を通して、生徒同士が協調したり、協力したりする経験を積むことにより、仕事をする中で人と協働できる力を三年間の教育活動を通して少しずつ身に付けていくことができればと思っています。



「働く生活を続ける」 ～よく生きるための働く意欲～

主幹教諭 森川 崇

12期生(令和5年度卒業生)が社会人としての生活を始め、2か月が経ちました。先日行われた「社会人キャリアアップ講座」では「慣れてきて、任せてもらう仕事が増えてきた。」「現場実習ではやらなかった難しいことに挑戦中です。」など新しい環境で、頑張る卒業生の報告が聞こえてきました。

就職すると専門的な技術の向上や、効率化を重要視しがちですが、これらは働く生活を続けていく中で、職場でじっくり身に付けることができます。下の図は「就労準備性ピラミッド」と言われ、働き続けるためには、全体を支える土台となる下の段が、より重要であることが示されています。

まずは健康管理です。十分な睡眠をとり体調管理する、バランスの良い食事をする、自分の気持ちや体調を確認し精神的にも安定して生活することは、社会生活の基盤です。次に日常生活管理は、例えば、決まった時刻に起きて活動することや、金銭の望ましい使い方を身につけることは、社会生活の基本となります。挨拶、返事、ふさわしい言動での振る舞いは周囲と協調した活動を行う対人スキルにつながります。

ここまではインターンシップ、現場実習までに身につけておきたい事柄です。こうした土台の上に、仕事のルール、マナーを意識して守ること、他者との距離感、顧客や組織のために行う行動といった基本的労働習慣を積むことで、信頼され任せてもらい、自信や誇りをもって仕事をする意欲につながります。

身体的、精神的、社会的に安定した生活が送れるよう、少しずつ学校生活、日常生活で意識し実践しましょう。

